

2023年3月期 決算概要

2023年5月15日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



CAFOの武藤でございます。2023年3月期の決算概要を説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

ハイライト

FY22実績

- 売上収益・営業利益ともに過去最高。当期利益も増益
- 売上収益は米州が成長牽引、全社で+5%伸長（為替影響除く）
- 利益はQ4で一時的に悪化。2月に発表した業績予想は未達

FY23業績予想

- グローバルで成長継続、売上収益は+6%伸長（為替影響除く）
- 高収益品の拡大等により、営業利益は二桁伸長

まず、本決算のハイライトです。

22年度の売上収益と営業利益はどちらも過去最高となり、当期利益も増益を確保しました。

売上収益は、米国を中心にグローバルで需要の強さが続いており、為替除き5%伸長となりました。

一方、利益は通期でインフレの影響を大きく受け、増益は達成したものの、直近のQ4ではさらに一時的な収益悪化要因も重なり、残念ながら2月に発表した業績予想を下回る結果となりました。

Q4の一時要因については後程、詳しくお話します。

23年度の業績予想については、売上収益は、グローバルで成長が継続、為替影響を除いて前年を上回る6%成長を見込みます。

営業利益については、①高収益品の拡大、②価格政策の更なる積極化、③製造費を主としたコスト低減策、により二桁増益と収益性改善で、額と率の改善を実現します。

次のスライドをお願いします。

P&L実績

- 売上収益：過去最高。米国を中心にグローバルで心臓血管領域の強い需要が継続
- 営業利益：過去最高も、原材料価格高騰やQ4での一時費用負担が重く収益性悪化

金額 (億円)	FY21 Q4累計	FY22 Q4累計	増減率	為替除く増減率	FY21 Q4	FY22 Q4	増減率
売上収益	7,033	8,202	17%	5%	1,798	2,022	12%
売上総利益 (%)	3,693 (52.5%)	4,174 (50.9%)	13%	2%	905 (50.3%)	990 (49.0%)	9%
一般管理費 (%)	1,991 (28.3%)	2,383 (29.1%)	20%	7%	528 (29.4%)	597 (29.5%)	13%
研究開発費 (%)	518 (7.4%)	616 (7.5%)	19%	7%	144 (8.0%)	160 (7.9%)	11%
その他収益費用	-25	-2	-	-	-18	5	-
営業利益 (%)	1,160 (16.5%)	1,173 (14.3%)	1%	-5%	215 (12.0%)	238 (11.8%)	11%
調整後営業利益 (%)	1,344 (19.1%)	1,380 (16.8%)	3%	-6%	273 (15.2%)	284 (14.1%)	4%
税引前利益 (%)	1,145 (16.3%)	1,161 (14.2%)	1%		215 (11.9%)	240 (11.9%)	12%
当期利益 (%)	888 (12.6%)	893 (10.9%)	1%		171 (9.5%)	191 (9.5%)	12%

期中平均レート(USD/EUR)

112円/131円

135円/141円

116円/130円

132円/142円

©TERUMO CORPORATION

4 / 27

TERUMO

PLの実績です。

売上収益は、通期で8,200億円を超え、過去最高となりました。最大市場の米国を中心に、グローバルで心臓血管領域における強い需要が売上を牽引しました。

営業利益は1,173億円となり、これも過去最高です。

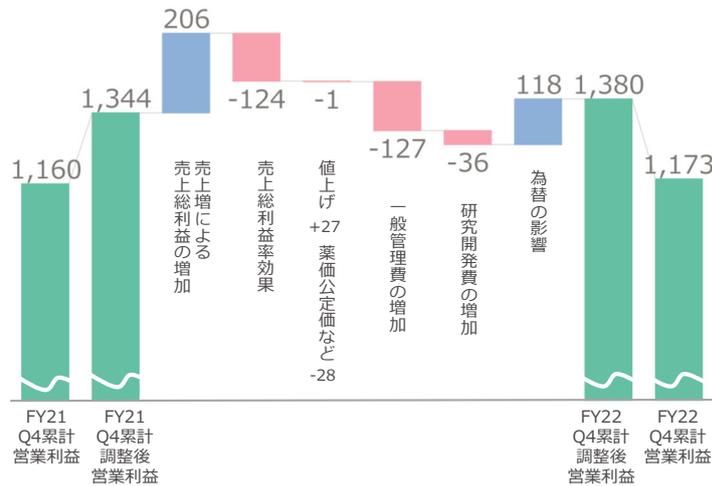
しかしながら、一年を通じてインフレやサプライチェーン混乱への対策に追われました。

今期23年度にどう収益改善を図るのか、これも後程ご説明します。

次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析（Q4累計）

(億円)



- 売上増による売上総利益の増加：
需要の増加と新製品効果による売上伸長
- 売上総利益率効果：
原材料価格高騰などが想定以上の規模で継続
- 価格：
期中に対象拡大した値上げも収益性維持には不十分
- 一般管理費・研究開発費の増加：
費用コントロールを継続。成長領域への投資は実施
- 為替の影響：
円安による大きなプラス影響

©TERUMO CORPORATION

5 / 27

TERUMO

通期の利益増減分析です。

ご覧の通り、22年度はインフレによる粗利益率の悪化を、増収や事業ミックス改善、値上げで跳ね返すことができませんでした。

次のスライドをお願いします。

業績予想（2月発表）利益未達要因

	(億円)	■ 全社	■ C&V	■ TMCS	■ TBCT
業績予想	売上	8,150	4,752	1,933	1,463
	AOP	1,430	1,115	171	151
	%	17.5%	23.5%	8.8%	10.3%
	OP	1,220	-	-	-
実績	売上	8,202	4,806	1,917	1,476
	AOP	1,380	1,122	148	112
	%	16.8%	23.3%	7.7%	7.6%
	OP	1,173	-	-	-
差額（為替除く）	売上	6	17	-13	3
	AOP	-55	1	-23	-39
	%	-	-	-	-
	OP	-52	-	-	-
%	-	-	-	-	

□ 収益悪化の一時的要因

TBCT

- 血漿イノベーション（PI）限定上市期間の長期化
物量未達による固定費負担増
- 受注残解消・コスタリカ生産移管のためのコスト
エアフレート利用増や複雑化したSC対応費用
- EOG滅菌訴訟対策（米国）
弁護士費用（FY23予想にも織り込み済み）

TMCS

- 製品出荷の翌期繰り越し
CDMO製品
- コロナ終息に伴う関連製品の在庫調整

C&V

- コスタリカ生産移管のためのコスト
移管元の生産継続

©TERUMO CORPORATION

6 / 27

TERUMO

これが2月に下方修正しました予想利益を下回った原因の説明です。

Q3までの実績にQ4見込みを足して通期予想としておりましたので、Q4に生じたギャップがそのまま、左下で囲んでいます通期の未達成額になります。約50億円の未達です。

この要因を大きい順に、カンパニー毎にご説明します。

まず血液・細胞テクノロジーで、血漿イノベーションの限定上市が長期化し、生産および販売物量が当初の想定を下回り、固定費負担が増加しました。具体的には、内製している製品は製造原価の不利差異として、外注品は固定費補填コストの形態で粗利益を低下させました。

また既存事業では、サプライチェーンの混乱に伴い受注残が発生、その解消のためエアフレート利用が増加しました。またコスタリカへの生産移管に関し、移管元の米国と生産が重なる時期があり、これも収益圧迫要因となりました。

加えて、現在米国の業界で課題となっている案件ですが、コロラドの施設において医療器の滅菌に広く使われているEOG（エチレンオキサイドガス）排出を巡る訴訟対応費用を計上しました。我々の排出量は許容値を大きく下回る水準ですが、現地で健康被害の訴訟が起き、その対応が23年度も継続する見通しです。次にメディカルケアソリューションズのCDMO事業において23年度上期に一部製品の出荷が繰り越されました。また、コロナ終息に伴い、手指消毒剤などの感染対策製品の在庫を一部調整したことも費用増加の要因となりました。最後に心臓血管ですが、トップラインの突き抜けに対して利益への貢献が小さかった要因として、コスタリカに生産移管中のCV事業の製品について、手作業工程が多い分、日程の遅れが生じました。そのため移管元と生産が重なる期間があり、生産性が低下しました。次のスライドをお願いします。

地域別売上収益

C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー
TIS: 血管内治療システム、CV: カーディオバスキュラー、TA: テルモアルティック（血管）、PS: ファーマシューティカルソリューション

FY22 Q4累計 地域構成比	売上収益 (億円)		FY22 Q4累計 増減率	コメント
	Q4累計	Q4		
35%	米州		() 内は為替影響除く	
	FY20	1,808	497	30%
	FY21	2,204	592	(9%)
	FY22	2,866	742	
25%	日本			
	FY20	2,018	534	
	FY21	2,061	511	1%
	FY22	2,074	503	
20%	欧州			
	FY20	1,204	328	
	FY21	1,404	364	14%
	FY22	1,600	414	(5%)
9%	中国			
	FY20	455	121	
	FY21	594	147	21%
	FY22	719	153	(7%)
11%	アジア他			
	FY20	654	172	
	FY21	770	184	22%
	FY22	943	209	(9%)

©TERUMO CORPORATION

7 / 27

TERUMO

地域別売上収益です。最大市場の米州を中心に、海外が成長を牽引しました。

米州は、TAやニューロ、さらに血液センターが二桁伸長など、為替除きで9%成長を達成しました。

日本は、感染対策製品の需要が一巡し、厳しい前年対比となりましたが、ファーマシューティカルソリューションやTAなどの新製品が寄与し、累計では伸長を維持しました。

欧州は、TISなど成長ドライバーが牽引し、全カンパニーが増収でした。

中国は、下期にもコロナ再拡大の影響がありましたが、Q4の後半には回復、最終的に為替を除いて7%プラスとなりました。

アジア他は、TISや血液センターが為替を除いても二桁成長し、好調でした。

次のスライドをお願いします。

C&V: 需要拡大と新製品効果により成長を継続。利益も順調に推移

(億円)

	Q4累計			Q4			コメント	Q4累計 売上増減
	()内は為替影響除く							
売上収益	3,285	3,971	4,806	901	1,027	1,217	TIS: グローバルで需要復調。治療領域では新製品の加わったPTCAガイドワイヤーや末梢塞栓デバイス、アクセスではクロージャーデバイスやシースの売上が拡大	+554
			21% (7%)			18%	ニューロ: 市場成長の波に乗り、米州を中心に海外が牽引	+128
セグメント利益	744	932	1,122	184	209	286	CV: 需要回復の早い海外が堅調。日本も回復の兆し	+71
			20% (2%)			37%	TA: 累計伸長率は30%に迫る。ステントグラフトとオープンステントグラフトがグローバルで順調に拡大	+81
利益率	23%	23%	23%	20%	20%	23%	利益: 高収益品の売上が拡大により順調に推移	

©TERUMO CORPORATION

8 / 27

TERUMO

カンパニー別に業績をご説明します。まず、心臓血管カンパニーです。

売上収益は、為替を除いてプラス7%伸長と、各事業ともにグローバルで堅調でした。特に米国は好調で全体をけん引しています。

TISとニューロは、グローバルで需要が回復し、新製品も加わって大きく伸ばしました。

TA（血管事業）の新製品も寄与し、伸長率は30%に迫りました。ステントグラフトのRelay ProとTREGO、オープンステントグラフトのThoraflex Hybridがグローバルで好調です。

利益は、高収益品の売上が拡大したことで、順調に推移しました。次のスライドをお願いします。

TBCT:

血液センター向けビジネスを中心に既存事業は引き続き好調
PIは限定上市期間の長期化に伴い固定費負担増

(億円)

	Q4累計	Q4	コメント	Q4累計 売上増減			
()内は為替影響除く							
売上収益	1,095	1,206	血液センター :	+205			
		1,476	海外の成分採血キットや全血採血における 自動化イノベーションの売上が引き続き増加				
		22% (8%)					
		285	アフレスシ治療 :	+58			
		304	血漿交換療法や造血幹細胞採取を用いる 症例数増加による売上拡大				
		342	細胞処理 :	+6			
		12%	細胞治療の持続的成長による堅調な需要				
セグメント 利益	191	208	利益 :	-18			
		112	原材料価格高騰やPIの固定費負担増に 加えて、コスタリカへの生産移管コストなども 重なり減益				
		-46% (-43%)					
	FY20	FY21	FY22	FY20	FY21	FY22	
利益率	17%	17%	8%	16%	12%	-5%	

©TERUMO CORPORATION

10 / 27



TBCT、血液・細胞テクノロジーカンパニーです。
売上収益は、血液センター向けビジネスを中心に、既存事業が好調に推移しました。
一方、利益はインフレ影響、血漿イノベーション事業の立ち上がり遅れ、生産移管コスト等の収益圧迫要因が重なり減益となりました。
次のスライドをお願いします。

FY23業績予想

- 売上収益：心臓血管を中心に成長を継続し、+6%伸長（為替影響除く）
- 営業利益：高収益品の売上拡大や収益性改善策のさらなる強化により二桁伸長

（ ）内は為替影響除く

金額（億円）	FY22実績	FY23業績予想	増減率
売上収益	8,202	8,540	4% (6%)
営業利益	1,173	1,325	13% (12%)
(%)	14.3%	15.5%	
調整後営業利益	1,380	1,510	9% (11%)
(%)	16.8%	17.7%	
当期利益	893	1,010	13%
為替レート(USD/EUR)	135円/141円	130円/145円	

（ ）内は為替影響除く

FY23業績予想 カンパニー別（億円）	売上収益		調整後営業利益		調整後 営業利益%
	金額	増減率	金額	増減率	
C&V	5,038	5% (7%)	1,205	7%	24%
TMCS	2,000	4% (5%)	205	38%	10%
TBCT	1,500	2% (4%)	125	12%	8%

©TERUMO CORPORATION

11 / 27

TERUMO

23年度業績予想です。

売上収益は、22年度に引き続きグローバルで需要が強く、為替影響を除いて6%成長を見込みます。引き続き心臓血管が牽引します。

営業利益は二桁伸長です。各カンパニーにおける高収益な成長ドライバーを確実に伸ばしながら、全社的な収益改善策も強化・加速させることで、利益率も確実に改善させます。

カンパニー別ではTMCSを二桁の利益率に戻します。

FY23 収益改善策

1. 高収益品の増収による利益増

- TISやニューロ、TAで高成長を維持し、C&Vで7%伸長
- TMCSはCDMO事業が成長牽引

2. 価格政策の更なる積極化

- 価格転嫁する事業・地域のスコープ拡大
- 国内低収益品の薬価改定

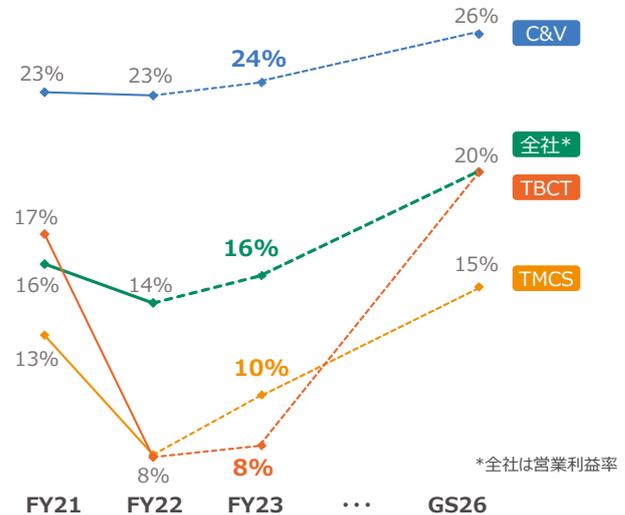
3. グローバル生産最適化・効率化

- コスタリカへの生産移管効果刈り取り
- 愛鷹工場の自動化・省力化

過年度一時費用の一巡

- 受注残解消（航空便利用頻度を軽減）
- PI本格上市へ（固定費負担軽減）

FY21～GS26 調整後営業利益率の推移



22年度は、GS26で目標と掲げる全社の営業利益率20%以上の達成に向けては、厳しい1年目となりました。この結果を重く受け止め、3つの収益改善策に取り組みます。

一つ目は、事業ミックスの改善です。心臓血管のTIS、ニューロ、TAと、TMCSのファーマシューティカルソリューションが拡大することでグロスマージンを上げます。

二つ目はさらなる値上げの積極化で、低収益品の国内薬価の是正に加え、インフレ影響の価格転嫁を進める対象を事業と地域の両面で拡大します。

三つ目は、グローバル生産最適化の目玉であるコスタリカ生産移管の効果の確実な刈り取りです。加えてTISの屋台骨を支える愛鷹工場でも、もう一段の効率化を図るプロジェクトが進行中です。

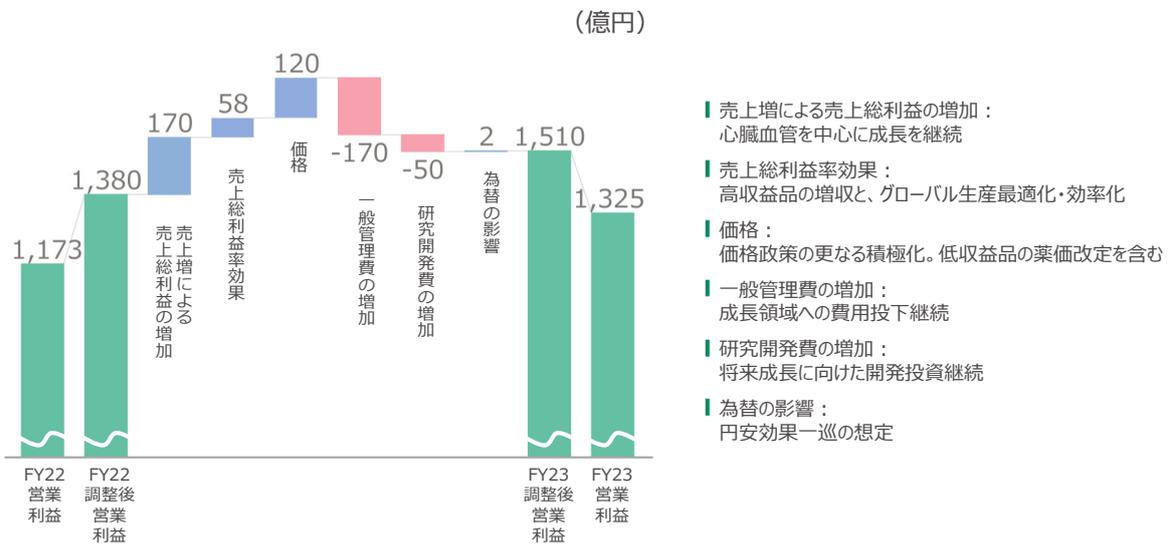
最後に、22年度のQ4は複数の一時的要因で費用が増加しましたが、23年度には出荷のズレや在庫調整等は解消し、エアプレー

ト等はその規模が小さくなることで、自ずと利益増に寄与します。
したがって、22年度に若干悪化したROIC, ROE等の主要KPIについても、23年度に改善し、更にGS26の最終目標に向けて取り組んでいきます。

中長期的なさらなる収益改善への施策は、この後、佐藤からお話します。

次のスライドをお願いします。

FY23 業績予想 利益増減要因



©TERUMO CORPORATION

13 / 27

TERUMO

業績予想の利益増減要因です。

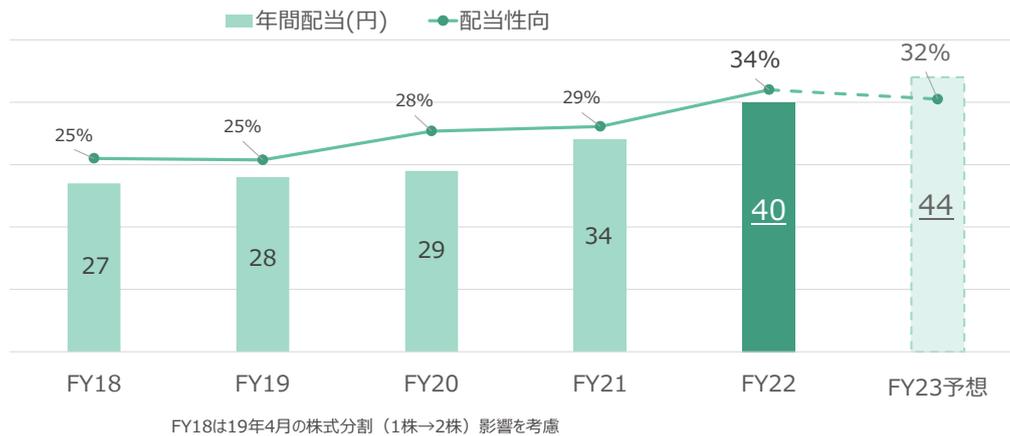
前のスライドでご説明した収益改善策のうち、事業ミックス改善とグローバル生産最適化・効率化の効果は、ウォーターフォールチャートの「売上総利益率効果」に含め、価格政策の更なる積極化は「価格」に含めています。

なお、23年度の為替影響については、ほぼフラットと見ています。次のスライドをお願いします。

配当案：還元方針に基づき増配継続

■ 還元方針：安定増配を継続し、GS26内に総還元性向50%水準を目指す

■ FY22は500億円の自己株取得により、総還元性向90%



©TERUMO CORPORATION

14 / 27

TERUMO

最後のスライドです。

配当案は、22年度期末を2月の提示案通り21円、中間とあわせて年間40円と致します。

23年度の配当案につきましては、さらに4円増やし、年間44円と致します。

毎年の安定的な増配と、目標としている配当性向30%を継続しながら、総還元性向50%水準を目指します。

以上で、決算概要の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

売上明細 (地域別・事業別)

2022年度 セグメント別売上収益

Revenue by Segment for FY2022

(百万円 / millions of yen)

		FY2021							FY2022							構成比 % to Total							
		日本 JPN	海外 Overseas	欧州 Europe	米州 Americas	中国 China	アジア Asia and others	合計 WW	日本 JPN	% to T	海外 Overseas	% to T	欧州 Europe	% to T	米州 Americas		% to T	中国 China	% to T	アジア Asia and others	% to T	合計 WW	% to T
心臓血管 カンパニー	TIS	32,110	231,837	69,183	165,315	16,043	27,058	263,947	32,288	0.6%	287,108	23.8%	72,477	14.7%	136,369	29.2%	43,593	20.9%	34,676	28.0%	319,396	21.0%	33.9%
	ニューロバスキュラー	5,446	52,708	16,264	22,441	9,333	4,846	88,168	5,627	3.3%	65,288	23.9%	18,761	13.3%	30,038	13.9%	11,592	23.9%	4,896	12.7%	70,916	21.9%	8.6%
	カーディオバスキュラー	10,806	36,543	8,834	23,214	2,001	3,893	47,360	10,404	-3.7%	44,085	20.6%	6,712	6.0%	28,389	22.8%	2,198	9.8%	6,783	33.2%	54,489	15.1%	6.6%
	血管	2,780	24,896	13,712	8,498	1,536	1,143	27,677	3,580	23.7%	32,227	29.4%	13,913	16.1%	13,179	33.1%	1,611	4.9%	1,513	32.2%	35,807	29.4%	4.4%
Cardiac and Vascular Company		51,144	345,986	99,796	159,570	48,942	37,677	397,130	51,900	1.2%	428,709	23.0%	112,869	14.2%	207,967	30.9%	58,996	26.5%	47,876	27.1%	480,610	21.0%	20.8%
メディカルケア ソリューションズ カンパニー	ホスピタルケアソリューション	100,303	27,737	2,738	7,996	1,370	15,011	138,041	98,533	-2.8%	31,261	12.7%	2,671	-3.2%	16,331	28.2%	1,879	44.4%	16,337	4.8%	129,794	1.4%	13.8%
	ライフケアソリューション	22,849	3,740	822	38	1,073	1,801	26,690	21,612	-5.8%	3,113	-16.8%	792	-8.7%	0	-100.0%	1,161	7.7%	1,159	-33.6%	24,726	-7.4%	3.0%
	ファーマシューティカルソリューション	19,482	11,121	7,481	2,373	217	849	30,603	23,355	19.9%	13,872	24.7%	8,840	18.2%	2,942	14.4%	336	77.7%	1,709	100.0%	37,228	21.6%	4.3%
Medical Care Solutions Company		142,735	42,599	11,062	10,608	2,666	18,262	185,335	143,502	0.2%	48,247	13.2%	12,294	11.2%	13,194	24.4%	3,527	32.3%	19,220	1.2%	191,749	3.2%	21.4%
血液・細胞 テクノロジー カンパニー	血液センター	11,407	77,190	22,712	30,316	6,372	17,738	85,697	11,005	-2.2%	98,257	27.8%	23,936	14.2%	40,960	31.1%	7,770	23.9%	23,584	32.6%	169,262	23.3%	13.3%
	アブレンシス治療機	493	22,958	3,946	12,999	1,062	2,950	23,392	595	37.1%	28,581	24.3%	6,878	13.7%	17,113	31.6%	1,333	27.4%	3,236	9.7%	29,177	24.7%	3.6%
	細胞治療	171	8,424	896	6,905	366	311	8,596	137	-19.9%	9,027	7.2%	1,028	14.8%	7,338	6.3%	209	-2.3%	361	14.6%	9,166	6.6%	1.1%
Blood and Cell Technologies Company		12,012	108,573	29,558	50,221	7,741	21,052	120,586	11,738	-2.3%	135,866	21.1%	33,842	14.3%	65,418	39.3%	9,422	21.7%	27,182	39.1%	147,605	22.4%	12.0%
その他		251	-	-	-	-	-	251	243	-2.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	243	-2.9%	0.0%
合計		206,143	497,159	146,417	220,400	59,350	76,991	703,303	207,385	0.6%	612,823	23.3%	166,017	14.0%	286,280	30.0%	71,946	21.2%	94,279	22.1%	820,209	16.6%	100.0%
売上比率		% to Total	70.7%	20.0%	31.3%	8.4%	10.9%	100.0%	25.3%	74.7%	19.3%	34.9%	8.8%	11.5%	11.5%	11.5%	11.5%	11.5%	11.5%	11.5%	100.0%		

(期中平均為替レート)

(Average Exchange Rates)

(USD)=¥112.39
(EUR)=¥130.55

(USD)=¥135.50
(EUR)=¥140.99

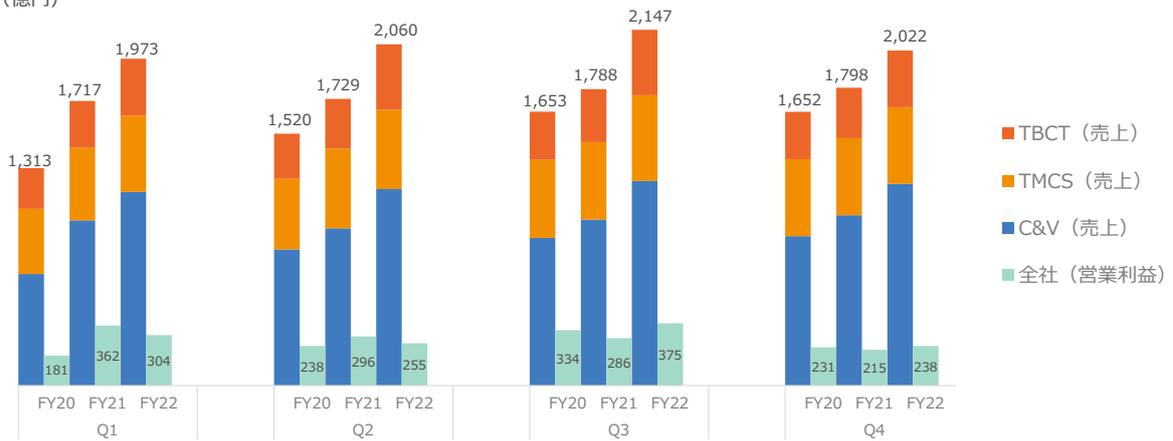
* 2022年度より、従来の「メディカルケアカンパニー」のセグメント名称を「メディカルケアソリューションズカンパニー」に変更しています。なお、サブセグメントについては、従来の「医療機器事業」を「ホスピタルケアソリューション」とし、「体外ヘルスケア事業」を「メディカルケアソリューション」とし、「ファーマシューティカルソリューション」に変更しています。これに伴い、2021年度についても、変更後の名称で記載しています。
* Effective fiscal 2022, the segment name of the former "General Hospital Company" has been changed to "Medical Care Solutions Company". As for sub-segments, the former "General Hospital Division" and "Pharmaceutical Division" have been combined into "Hospital Care Solutions", "DM and Consumer Healthcare" has been renamed "Life Care Solutions", and the "Alliance" has been renamed "Pharmaceutical Solutions". In accordance with this change, the fiscal 2021 figure is also listed under the new names.

売上収益・営業利益の四半期推移

売上収益： Q4は前同比+12%。QoQでは-6%

営業利益： Q4は前同比+11%。QoQでは-37%

(億円)



P&L (四半期推移)

(億円)

	FY21 Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	
売上収益	1,798	1,973	2,060	2,147	2,022	
売上総利益	905 (50.3%)	1,016 (51.5%)	1,054 (51.1%)	1,114 (51.9%)	990 (49.0%)	
一般管理費	528 (29.4%)	566 (28.7%)	605 (29.4%)	615 (28.6%)	597 (29.5%)	
研究開発費	144 (8.0%)	141 (7.1%)	157 (7.6%)	159 (7.4%)	160 (7.9%)	
その他収益費用	-18	-6	-37	35	5	
営業利益	215 (12.0%)	304 (15.4%)	255 (12.4%)	375 (17.5%)	238 (11.8%)	
調整後営業利益	273 (15.2%)	359 (18.2%)	345 (16.8%)	392 (18.2%)	284 (14.1%)	
四半期	USD	116円	130円	138円	142円	132円
平均レート	EUR	130円	138円	139円	144円	142円

©TERUMO CORPORATION

18 / 27

 TERUMO

販管費（四半期推移）

		(億円)				
		FY21 Q4 (1-3月)	FY22 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
人件費		256	298	312	316	307
販促費		45	46	44	52	45
物流費		41	44	47	49	44
償却費		54	56	59	60	58
その他		132	123	142	138	143
一般管理費計		528	566	605	615	597
(%)		(29.4%)	(28.7%)	(29.4%)	(28.6%)	(29.5%)
研究開発費		144	141	157	159	160
(%)		(8.0%)	(7.1%)	(7.6%)	(7.4%)	(7.9%)
販管費合計		672	706	761	774	757
(%)		(37.3%)	(35.8%)	(37.0%)	(36.0%)	(37.4%)
四半期	USD	116円	130円	138円	142円	132円
平均レート	EUR	130円	138円	139円	144円	142円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY21 Q4累計	FY22 Q4累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY21 Q4	FY22 Q4	増減	増減率
人件費	1,010	1,233	223	22%	7%	256	307	50	20%
販促費	160	187	27	17%	8%	45	45	-0	-0%
物流費	157	184	27	17%	7%	41	44	3	8%
償却費	203	234	31	15%	8%	54	58	4	8%
その他	461	545	84	18%	8%	132	143	11	9%
一般管理費計	1,991	2,383	392	20%	7%	528	597	69	13%
(%)	(28.3%)	(29.1%)				(29.4%)	(29.5%)		
研究開発費	518	616	97	19%	7%	144	160	16	11%
(%)	(7.4%)	(7.5%)				(8.0%)	(7.9%)		
販管費合計	2,509	2,999	490	20%	7%	672	757	86	13%
(%)	(35.7%)	(36.6%)				(37.3%)	(37.4%)		

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY21 Q4累計	FY22 Q4累計	FY21 Q4	FY22 Q4
営業利益	1,160	1,173	215	238
調整① 買取無形資産の償却費	161	188	42	44
調整② 一時的な損益	24	19	16	2
調整後営業利益	1,344	1,380	273	284

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買取関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY21 Q4累計	FY22 Q4累計
事業再編費用	16	25
細胞処理事業の一部売却に関わるのれんの減損	-	36
栄養事業の事業等売却益	-	-39
その他	8	-4

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

	FY19	FY20	FY21	FY22	FY23予想
設備投資	895	772	692	758	800
償却費	477	484	532	635	675
買収無形償却費	157	146	161	188	175
それ以外	320	338	371	447	500

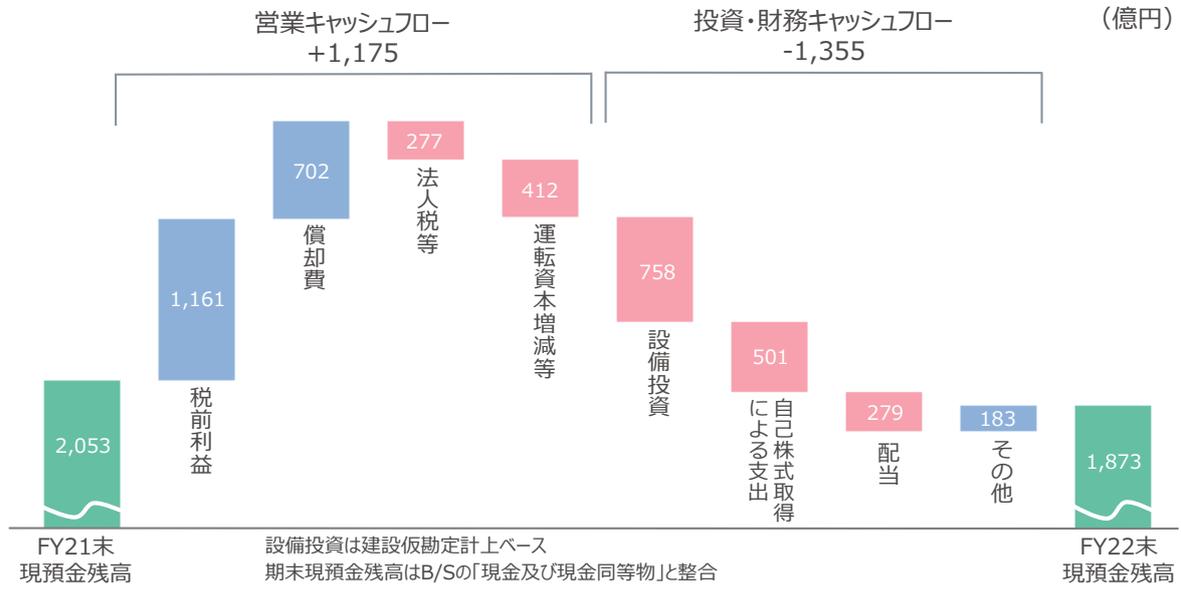
設備投資は建設仮勘定計上ベース、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

■ FY22設備投資：主にTIS、ニューロ、PS、血液・細胞テクノロジーの増産設備、PI関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続。CDMO等生産体制強化のため、甲府工場内の新棟建設に向けた投資を開始

■ FY23設備投資：上記案件を含めた成長投資の継続

	FY19	FY20	FY21	FY22	FY23予想
研究開発費	506	491	518	616	650

キャッシュフロー（Q4累計）

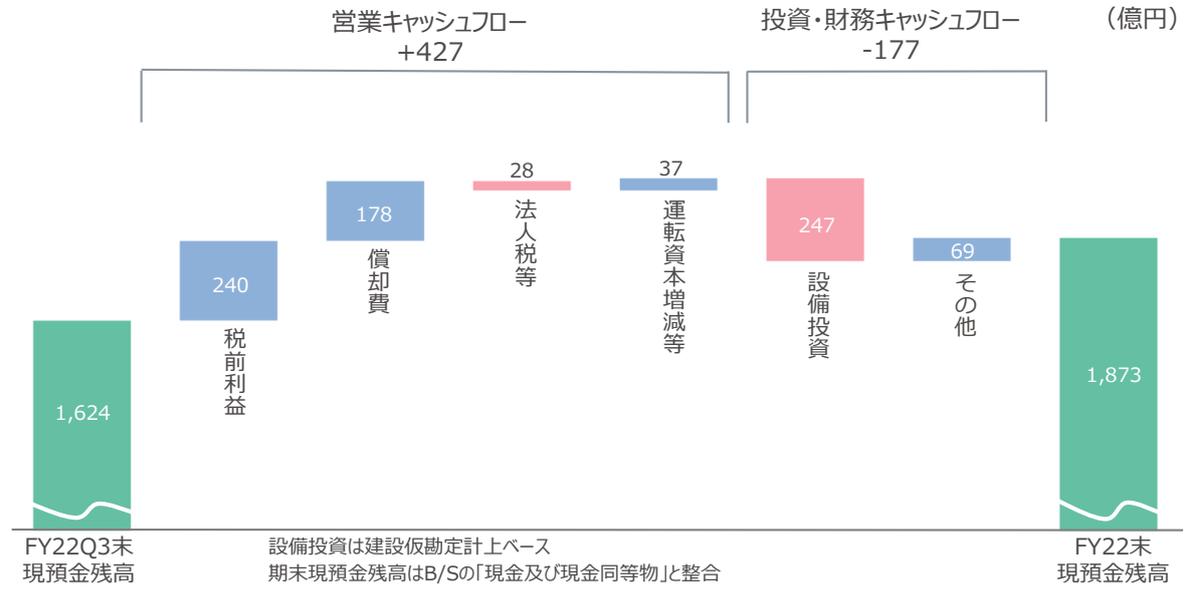


©TERUMO CORPORATION

23 / 27



キャッシュフロー（Q4）



©TERUMO CORPORATION

24 / 27

TERUMO

為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

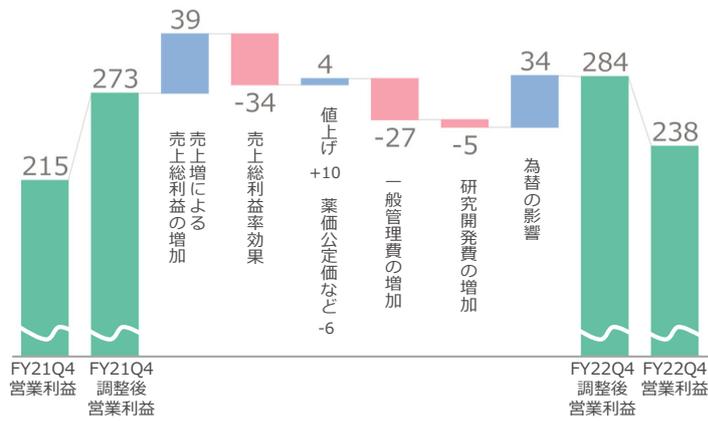
	USD	EUR	中国元
売上収益	20	9	38
調整後営業利益	1	5	16

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	中国	その他
調整後営業利益	7	10	74	13	31	36

営業利益増減分析 (Q4)

(億円)



- 売上増による売上総利益の増加：
需要増と新製品効果による売上伸長
- 売上総利益率効果：
原材料費高騰などの影響と一時的要因によるマイナス
- 価格：
値上げ効果はQ3と同規模
- 一般管理費・研究開発費の増加：
費用コントロールを継続しながら必要な投資を実施
- 為替の影響：
円安によるプラス影響

製品パイプラインとトピックス

GS26 Delivery Deviceceuticals Digital

主要製品の発売・適応取得状況

領域（事業）	一般名	製品名など	～FY22	FY23目標
治療（TIS）	薬剤溶出型冠動脈ステント	Ultimaster Nagomi	日本発売	欧州発売
治療（TIS）	末梢血管塞栓用コイルシステム	AZUR ファミリー	Hydro Coil, Framing Coil CX, Soft3D（日） Vascular Plug（米） 発売*	Hydro Coil CX 中国発売
ステントグラフト（TA）	胸部大動脈ステントグラフト	Relay シリーズ	RelayPro 米国発売 日本適応拡大	米国適応拡大による 売上拡大
輸液アクセス（HCS）	静脈留置針	サーフロー-ZERO	日本発売	売上拡大
糖尿病（LCS）	連続血糖測定システム	G6	日本 保険適用追加	売上拡大
細胞処理	細胞増殖システム	Quantum Flex	グローバル発売	売上拡大



TIS: 血管内治療システム, TA: テルモアオルテック（血管）、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション
*Hydro Coil, Framing Coil, CXは中国除くグローバル発売

主なトピックス

- 従業員の業績評価制度を改定：新たにESGやCSVに関するGS26の重点テーマに基づく「将来企業価値目標」を採用、その達成度を賞与支給額に反映
- DE&I推進を強化：DE&Iの重点分野を4つ選定し、今後グループ各社で活動を強化。女性活躍推進へ国内管理職比率の目標値を上方修正
- R.A.V.I. Registry：腹部カテーテル治療におけるラディアルアクセスの安全性と有効性を検証する研究結果を発表
- テルモの温室効果ガス排出削減目標が、SBTイニシアチブの「1.5℃水準」認定を取得

